

男性にとつての男女共同参画
男女共同参画の今後を考える



イラスト 希望ヶ丘1 齋藤ひと美さん

Contents

- 男女共同参画講座 Report
- 市内の男女共同参画の取組み Report
市内事業所紹介 東濃信用金庫
- 多治見市職員イクメン体験記
- information
第3次男女共同参画基本計画が策定されました



2月2日まなびパークで行われた安藤哲也さん
トーク&絵本ライブの様子

2/2(水) 安藤パパの楽しいトーク&絵本ライブ

「育児を楽しむパパの極意とは？」を開催しました。

安藤哲也さん

1962年、東京池袋生まれ。13歳（女）、10歳（男）、2歳（男）の父親。2006年11月、会社員として仕事をする傍ら、父親の子育て支援・自立支援事業を展開するNPO法人ファザーリング・ジャパンを立ち上げ、代表に選出・就任。現在は専従。（株）絵本ナビの顧問も務める。



多治見市学習館と合同開催したトーク&絵本ライブには、お子さんと一緒のお母さん、イクメンを目指すお父さんなど約100人の方が来場されました。

絵本ライブでは、「たまごさんがね・・・」「きんぎょがにげた」など6冊の絵本を朗読。さすが現役のイクメン、子どもの対応は慣れたものです。“前においで〜”と子どもたちを集め、ただ読むのではなく、会場とやりとりしながら、ダイナミックに、ユーモアを交えながら読まれ、子どもたちや会場を惹きつけていました。パパならではの絵本のチョイスもあり、とても楽しい時間となりました。



絵本ライブの後は、ママやパパたちを中心に「育児を楽しむパパの極意」についてのトークの時間です。イクメンになる極意とは、父親となる男性の考え方の転換、これが一番のようでした。

笑う父親になるためのファザーリングの極意6か条

「子どもができたならOS（父親ソフト）を入れ替えよう」「義務から権利へ。客体から主体へ。さらば『家族サービス』」「男の育児は、質より量。イイトコドリ育児はやめよう」「子育てパパは仕事もデキル。」「パートナーシップの構築〜妻の人生は夫のものではない」「地域活動を通じてシチズンシップを獲得しよう」



極意の背景にあるのは、ママの悩みです。子どもが小さいうちは、夏に髪の毛を洗えない不快感を持ちつつ、育児、家にどっぴりつかり、承認されたいと強く思っている。これを理解してくれる夫の存在は非常に大きいといえます。一方で、パパも悩みを抱えています。仕事が忙しく育児時間がとれない、子どもが生まれてから夫婦関係が悪化したなどです。

では、どうすればいいのか、今は、家庭がホームでなく、アウェー状態のお父さんが多いから、家庭を帰りたくなる場所にしようと言われました。安藤さんは、“絵本読むのが好きで、楽しいから今日も早く帰ろう”そのために仕事を早く片付けるように工夫しているといいます。メール文も本当に短いそうです。でも、子育てのメリットは限りなく大きく、母親の育児ストレスを軽減するだけでなく、子どもの成長にもプラスになる。また父親自身の世界が広がり、仕事に生きる力も身につくといいます。

逆に母親も“自分が子どもを育てるんだ”と門番になってしまっただけとはいけなかったと言われました。父性、母性のバランスが大切なのだと。それに、今ヒット商品生み出しているのは子育てしている母親だよ。母親ももっと社会に出て能力活かさないともったいないと、女性の社会参加の必要性にも触れられました。

そして、親は子どもから離れていく努力をしないとイケない。限りある時間を濃密に過ごそう、期間限定のプロジェクトXである父親を楽しもうと投げかけられました。

参加者のみなさんの感想

「お父さんの読む絵本って素敵ですね。」

「パパに聞かせたかったです。」

「子育てを狭い視野でとらえず、毎日を楽しみたいです。」

「夫の仕事が忙しく、育児を一緒にして来れませんでした。が、今日の話を夫にして、お互いに変われたらと思います。」

「文句を言うだけでなく、“夢を夫に語る”、将来について考えるという点に考えが足りなかったと思いました。」

「育児で疲れていたの、主人と一緒に聞けてよかったです。」

「父親の育児の重要さがわかりました（男性）。」

☆多治見市役所にインターンシップに来ていた宮本優介さん（土岐商1年生）にも感想を聞きました。

「市役所の研修中、一番印象に残っているのは安藤さんの話です。これからの世の中は、奥さんだけが家事・育児をするのではなく、お父さんも家事・育児に参加しないといけないと学びました。」

多治見市内の男女共同参画の取組みについて～民間事業所編～

アンケート調査を実施しました

多治見市では、平成22年3月の入札指名業者登録の機会を活用し、雇用の現状、育児休業等の利用状況、男女共同参画推進の取組みについてアンケート調査を実施しました。アンケート調査からは、市内事業所に次のような特徴が見られました。

※ アンケート調査は746社（うち市内に事業所を有する企業107社《14%》）を対象に実施。

業種内訳は、物品・役務提供等73%、建設工事9%、測量・コンサルタント等4%、無回答14%と偏りあり。

対象となった市内事業所は、全体に比べ従業員数が少ない傾向。例 50人未満企業割合 全体51%、市内65%

市内事業所の特徴

項 目	数 値、 傾 向	参 考
〔従業員50人未満企業〕部長級に占める女性割合	10%を超えている 多い!	全国4.9%（H21）※従業員数不問
女性の勤続年数（平均）	15年 長い!	全国8.6年（H21）
育児休業・介護休暇・看護休暇の取得	従業員数が多いほど取得企業の割合が多い	—
セクシュアル・ハラスメント防止に取り組んでいない企業割合	54.2% 多い!	全体44.6%
ワークライフバランス（仕事と生活の調和）に取り組んでいない企業割合	63.6% 多い!	全体52.7%

多治見市内では、小規模な事業所が多いせいか、女性が育児休業を取得しにくい状況がある一方、経験年数を積む人、高い役職で活躍する女性がいることがわかりました。また、セクシュアル・ハラスメントやワークライフバランスなどの制度確立が難しいこともうかがわれます。今後は、市内の中小の事業所に対し、ワークライフバランス、男女共同参画の大切さや、有効な取組みを広報していくことが必要です。

市内事業所が取り組むワークライフバランス

東濃信用金庫は、多治見市に本店を置く、従業員男性613人、女性518人の信用金庫。2009年には、職場ぐるみで仕事と家庭の両立支援に取り組む企業として国から「くるみんマーク」の認定を受けています。人事課長の久野義弘さんと人材開発課代理の横山幸子さんに、ワークライフバランスの取組みについてお話を伺いました。



●どんな取組みに力を入れていますか？

残業時間の削減と有給休暇の取得促進です。残業については、特に全店定時退庫を8月と1～2月に実施し、前年比3割削減を達成できそうです。また、有給休暇については、職場離脱という意味も含め、土日を2回含む9連休の取得を1年に1度義務付けています。また、6月にネーミング休暇を新設したところです。記念日、子どもの行事、ボランティア等個人個人のニーズに合った休暇を取ってもらおうというものです。

くるみんマーク

●育児休業者の復帰支援の取組みは？

現在、短時間勤務制度や、最長2年までの育児休業制度があり、ほとんどの女性が育児休業取得後職場復帰しています。戦力として働き続けてもらうために、復帰支援は重要です。休業中の不安を解消しスムーズな復帰を目指し、2か月に一度、**カンガルーポケットの会**という育児休業者や職場復帰した人が子ども同伴で参加することができる研修や情報交換のための会合を実施しています。仕事内容の変更点についての説明や、先輩職員から復帰の際の心構えについて話をする時間を設けています。



復帰後は、勤務する店舗も違うことから、この期間に育休者同士のつながりを作り支援するということは大事です。復帰後に問題を抱え込むケースもあり、この会に参加を促し、話すことで解決につながったケースもあり、やってよかったと思いました。参加者からも好評を得ています。（カンガルーポケットの会は、横山さんの発案。身近に辞めていく女性を見たり、自身も復帰で困難を味わった経験から、女性も働き続ける時代に、誰もが挫折することなく働き続けやすい職場づくりに協力できたらと思ったのがきっかけ。会で自身の経験も話し、参加者の目指す先輩モデルにもなっているようです。）



●そもそもワークライフバランスに取り組もうと思ったきっかけは？また実施にあたって必要なことは？

社会の流れの中で、企業のあるべき方向性を考え実施しています。以前は夜9～10時が当たり前の世界でしたが、いい人材を確保するためにも、そして職員には社会人として有意義な生活を過ごしてもらうために実施しています。職員を大切にすることは、業績にもつながると考えています。早く帰れる喜びを体験してもらえば、早く帰ろうとモチベーションが上がり、いい仕事にもつながります。逆にそうしないと、生産性の上がる仕事はできません。

短時間で成果を上げるためには、上司の適切な指示が重要です。部下もそれを見習います。各支店の実施状況を見ながら、管理職にも啓発しています。

●今後の課題は？

ワークライフバランスの定着とともに、女性の戦力をどう活用できるかです。従業員の半分は女性であり、女性の人材活用が今後さらに重要だと考えています。

多治見市職員イクメン体験記 ～新米パパが育児休暇を取得した！～

多治見市職員、内山祐介さんは長女桃花ちゃんが昨年10月に生まれたのを機に、12月に育児のために休暇を約2週間取得しました。育児休暇中の貴重な体験記をお届けします。

初日の朝、娘の泣き声で起こされる。時間は6時10分。昨日は6時30分に起こされ、オムツだけ替えて2度寝。「今日はこのまま起きて娘とバトルだ～」と寝ぼけながら起きた。もう定番となったオムツ替えはまだぎこちないながらもさっとこなし、ママにバトンタッチでオッパイの時間。パパは育児を手伝うことはできるけど、オッパイは出ないからそこだけちょっとくやしい。パパはオッパイはあげられないけど朝食を作ることはできるのさって自分自身に言い聞かせながら朝食の準備へ。そのあとは娘が泣いたら、あやしたり、歌を歌ったり、娘が寝たら、その際に洗濯したり、部屋の片づけなどの家事をしたり1日目からてんやわんやでした。

さて、私が育児の休暇を取ろうと思ったきっかけは一番に「ママを助けたい」という気持ちがあったからです。ママは出産後、体調が万全な状態ではなかったのに加え、育児初体験ということもあり、何かパパとしてサポートしたいという気持ち在我心中に芽生えていました。

泣き止まない、寝てくれない娘と向き合ったり、寝ている短い時間で家事を済ませたりなど育児の難しさ大変さを学ぶと同時に、娘が笑ってくれたときの嬉しさと楽しさも知りました。子育ては女性だけのものではなく、男性にとっても自分を成長させてくれるもの。「ママのハンパじゃない忙しさ」と「子どもの自分を必要としてくれる眼差し」をもっと世のパパに伝えていかなければと思いました。

イクメンという言葉が最近特に流行していますが、イクメンとは「家族の中で家族の役割をしっかりと担うパパ」であってほしいです。家事と育児をこなし、夫婦のパートナーシップを考えながらママと二人三脚で家族を支えることが真のイクメンだと思います。それは、子どもが生まれてからなるものではなく、もしかしたら結婚と同時に becoming いくものかもしれません。そして、今は男性が育児に参加することが珍しいから注目されるわけで、いつかそれが当たり前になり、昔そんな言葉もあったよねという時代が来るといいなと思います。



INFORMATION

第3次男女共同参画基本計画が策定されました。

2020年までの長期的政策の方向性を示した第3次男女共同参画基本計画が12月に閣議決定されました。

特徴は4つあります。一つ目は、男性や子どもにとっての男女共同参画、貧困問題への対処など新しい重点分野を追加したこと、二つ目は、実効性のある計画にするため、具体的に成果目標を設定したこと、三つ目は、2020年に指導的地位に女性が占める割合を30%にするためにポジティブアクション（積極的改善措置）を推進することとしたこと、四つ目は女性の就業問題への対応や経済分野への活躍を強調したことです。多治見市もこの計画に沿って来年度現在の第2次男女共同参画プランを見直す予定です。皆さんのご意見をお待ちしています。

男女共同参画サロン ほっと

親子・夫婦関係、職場のこと、セクハラ、DVなど、女だから、男だからという理由で生きづらいということはありませんか。ほっとは、様々な悩みを話せる場、情報提供の場、市民の方の交流の場としてオープンしています。男性も女性も共にいきいきと暮らしていくために、お気軽にご利用ください。



悩み事相談

◎開設日 毎月第3金曜日 午後1時～午後5時
※3～4か月ごとにミニ講座を併せて開催。開催月は開設日変更あり。

◎場所 まなびパークたじみ 1階会議室

・悩み事相談は、アドバイザー、女性相談員が対応します。
・男女共同参画に関する書籍・DVD・資料も取り揃えています。

お知らせ

平成23年度から、ほっと法律相談が市の法律相談に一本化されることになり、廃止となりました。今後は、市の法律相談と連携し十分な対応を行っていくつもりですので、ご理解いただきますようお願いいたします。

【お問い合わせ】多治見市企画課人権推進室 22-1111（内線1462）
※平成23年4月から、くらし人権課

●この情報紙へのご意見やお問い合わせは下記までお寄せください。

■多治見市役所企画部企画課人権推進室

※平成23年4月から、くらし人権課になります。

〒507-8703 多治見市日ノ出町2-15

TEL 22-1111（内線1462）

FAX 25-7233

E-mail: jinken@city.tajimi.gifu.jp

作成費用 49,770円 作成部数 1,500部



環境にやさしい植物油インキを使用しています

平成13年度市民の方と一緒に作る情報紙としてスタートしたTogetherをこのたび廃刊することになりました。今まで編集に携わっていただいた方、記事をお寄せくださった方、読んでいただいた多くの方に感謝申し上げます。

今後とも、皆さんの必要な情報を皆さんに合った形でお届けできるよう心がけていきたいと思っています。